

6. 生 物

6.1 評価の進め方

6.1.1 評価方針

ダム等管理フォローアップ制度は、適切なダム管理を行っていく重要性を鑑み、事業の効果や環境への影響等を分析、評価し、必要に応じて改善措置を講じる取り組みである。各ダムで5年ごとに過去の調査結果の分析・評価を行い、定期報告書を作成する。

ここでは、布目ダムの河川水辺の国勢調査の結果を活用し、生物に関する評価としてダム湖及びその周辺の環境特性の把握を行い、生物の生育・生息状況に変化が生じているかどうかを整理した。

検証、評価する項目は以下のとおりである。

- (1) 生物の生息・生育状況の変化の検証
- (2) 生物の生息・生育状況の変化の評価

6.1.2 評価手順

生物に関する評価の手順を図 6.1.2-1 に示す。

収集した資料をもとに、基礎情報としてダム湖及びその周辺の環境の把握を行った。

次に区域ごとに生物の生息・生育状況の変化の把握を行った。それぞれ、環境条件の変化やそれに伴う生物の生息・生育状況の変化を把握し、その変化がダムによる影響を受けているか検証した。その結果を受け、生物の生息・生育状況の変化に対する評価を行った。

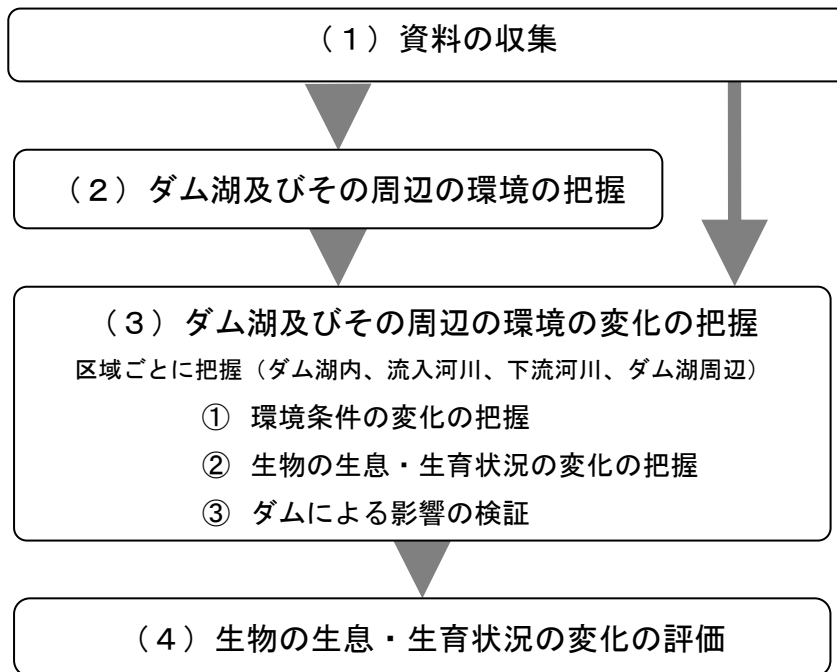


図 6.1.2-1 生物の評価の手順

6.1.3 資料の収集

(1) 資料の収集

検証及び評価に際しては、平成4年度から平成18年度までの河川水辺の調査報告書を使用した。報告書作成に使用した文献のリストを表6.1.3-1に示す。

表 6.1.3-1 文献リスト

資料番号	区分	資料名	発行年月
資料-1	国 勢 調 査	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 報告書	平成6年3月
資料-2		木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (布目ダム)(植物調査、陸上昆虫類等調査)	平成7年3月
資料-3		木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (布目ダム)(底生動物調査)報告書	平成8年3月
資料-4		木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (布目ダム)(魚介類調査)報告書	平成9年2月
資料-5		木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務(鳥類調査) 報告書 布目ダム	平成10年3月
資料-6		木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (両生類・爬虫類・哺乳類・陸上昆虫類等調査)[布目ダム] 報告書	平成11年3月
資料-7		平成11年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 報告書(植物調査)布目ダム	平成12年1月
資料-8		木津川ダム群 平成11年度 河川水辺の国勢調査 動植物プランクトン調査(提出用成果)	平成12年3月
資料-9		平成12年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (底生動物調査)(布目ダム) 報告書	平成13年3月
資料-10		平成13年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 (魚介類調査)(布目ダム) 報告書	平成14年3月
資料-11		平成14年度 河川水辺の国勢調査 (鳥類調査) 報告書 布目ダム	平成15年3月
資料-12		平成15年度 河川水辺の国勢調査(布目ダム) (陸上昆虫類等調査)報告書(平成16年3月)	平成16年3月
資料-13		平成15年度 河川水辺の国勢調査(布目ダム) (両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書(平成16年3月)	平成16年3月
資料-14		木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その3) 報告書	平成17年3月
資料-15		平成16年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その1) 報告書(陸上植物)	平成17年3月
資料-16		平成17年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その1) (布目ダム)(底生動物) 報告書	平成18年2月
資料-17		平成18年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その1) (鳥類調査)報告書	平成19年3月
資料-18	自然 環 境 検 討 業 務	平成11年度 木津川ダム群自然環境検討業務 (植物、動植物プランクトン) 報告書	平成12年3月
資料-19		平成12年度 木津川ダム群自然環境検討業務 (底生動物) 報告書	平成13年3月
資料-20		平成13年度 木津川ダム群自然環境検討業務 (魚介類調査) 報告書	平成14年3月
資料-21		平成14年度 木津川ダム群自然環境検討 (鳥類) 報告書	平成15年3月
資料-22		平成16年度 木津川ダム群自然環境検討 (植物、動植物プランクトン) 報告書	平成17年3月
資料-23	他	貯水池魚介類調査(その1) 報告書	平成5年2月
資料-24		河川水辺の国勢調査資料整理業務 (魚介類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、 鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査)	平成7年3月
資料-25		平成18年度 木津川ダム湖水質調査(その2)業務 報告書	平成19年3月

(2) 調査実施状況の整理

布目ダムで実施した生物調査の実施状況を表 6.1.3-2 に示す。

布目ダムでは、陸域に係る調査として陸上植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、陸上昆虫類等調査を、水域に係る調査として魚類、底生動物、動植物プランクトン調査を実施している。

調査項目ごとの調査内容（調査年度、調査範囲、調査地点、調査時期、調査方法）を表 6.1.3-3(1)～(8)に、調査位置を図 6.1.3-1(1)～(8)に示す。

表 6.1.3-2 年度別調査実施状況の整理

年度	調査番号	調査件名	対象生物						
			魚介類	底生動物	動植物プランクトン	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	植物
平成4年度	1	貯水池魚介類調査（その1）報告書	●						
平成5年度	2	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 報告書	●	●	●	●	●		
	3	河川水辺の国勢調査資料整理業務 （魚介類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、 鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査）	○	○	○	○	○		
平成6年度	4	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （布目ダム）（植物調査、陸上昆虫類等調査）						●	●
平成7年度	5	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （布目ダム）（底生動物調査）報告書		●					
平成8年度	6	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （布目ダム）（魚介類調査）報告書	●						
平成9年度	7	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務（鳥類調査） 報告書 布目ダム				●			
平成10年度	8	木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （両生類・爬虫類・哺乳類・陸上昆虫類等調査） 〔布目ダム〕 報告書					●	●	
平成11年度	9	木津川ダム群 平成11年度 河川水辺の国勢調査 動植物プランクトン調査（提出用成果）			●				
	10	平成11年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 報告書（植物調査） 布目ダム							●
	11	平成11年度 木津川ダム群自然環境検討業務 （植物、動植物プランクトン） 報告書			○				○
平成12年度	12	平成12年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （底生動物調査）（布目ダム） 報告書		●					
	13	平成12年度 木津川ダム群自然環境検討業務 （底生動物） 報告書		○					
平成13年度	14	平成13年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査業務 （魚介類調査）（布目ダム） 報告書	●						
	15	平成13年度 木津川ダム群自然環境検討業務 （魚介類調査） 報告書	○						
平成14年度	16	平成14年度 河川水辺の国勢調査 （鳥類調査） 報告書 布目ダム				●			
	17	平成14年度 木津川ダム群自然環境検討 （鳥類） 報告書				○			
平成15年度	18	平成15年度 河川水辺の国勢調査（布目ダム） （両生類・爬虫類・哺乳類調査）報告書（平成16年3月）					●		
	19	平成15年度 河川水辺の国勢調査（布目ダム） （陸上昆虫類等調査）報告書（平成16年3月）						●	
平成16年度	20	平成16年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査（その1） 報告書（陸上植物）							●
	21	木津川ダム群河川水辺の国勢調査（その3） 報告書			●				
	22	平成16年度 木津川ダム群自然環境検討 （植物、動植物プランクトン） 報告書			○				○
平成17年度	23	平成17年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査（その1） （布目ダム）（底生動物） 報告書		●					
平成18年度	24	平成18年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査（その1） （鳥類調査） 報告書				●			
	25	木津川ダム湖水質調査（その2） 報告書			●				

●…現地調査実施業務
○…データ整理・検討業務

表 6.1.3-3 (1) -1 調査項目別調査内容一覧 (魚介類)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成4年度	1	ダム湖内	St.1~5	平成4年 8月・10月	捕獲調査(刺網、投網、手網、延縄、カニカゴ、セルビン)
		流入河川	St.6	平成4年8月	
平成5年度	2	ダム湖内	St.1~3	平成5年9月	捕獲調査(刺網、投網、手網、延縄、魚カゴ、カニカゴ、セルビン、どう)
平成8年度	6	下流河川	St.1	平成8年 7月・10月	捕獲調査(刺網、投網、タモ網、延縄、魚カゴ、カニカゴ、セルビン、どう)
		ダム湖内	St.2~4		
		流入河川	St.5		
平成13年度	14	下流河川	St.1	平成13年 8月・10月	捕獲調査(刺網、投網、タモ網、潜水、延縄、カニカゴ、セルビン、どう、定置網)
		ダム湖内	St.2~4、6		
		流入河川	St.5		

表 6.1.3-3 (1) -1 魚類調査の調査努力量 (平成8年度調査)

調査方法	下流河川(St.1)		湖内(St.2)		湖内(St.3)		湖内:河川流入点(St.4)		流入河川(St.5)	
	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋
	7/22, 23	10/16, 17	7/22, 23	10/17, 18	7/22, 23	10/16, 17	7/26, 27	10/17, 18	7/26, 27	10/17, 18
投網(12mm・18mm)	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投
タモ網	60分	60分	60分	60分	60分	60分	60分	60分	60分	60分
セルビン・カニカゴ・どう	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個
魚カゴ(大・小)	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個
延縄	—	—	50本	50本	50本	50本	50本	50本	—	—
刺網(一枚網・三枚網)	—	—	各5枚	各5枚	各5枚	各5枚	—	—	—	—
まき網	—	—	—	1力所	—	—	—	—	—	—
地曳網	—	—	—	—	—	3回	—	—	—	—
定置網	—	—	—	—	—	—	—	1力所	—	—

表 6.1.3-3 (1) -2 魚類調査の調査努力量 (平成13年度調査)

調査方法	下流河川(St.1)		湖内(St.2)		湖内(St.3)		湖内:河川流入点(St.4)		流入河川(St.5)		湖内:最深部(St.6)	
	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋
	8/3, 4	10/12, 13	8/2, 3	10/11, 12	8/2, 3	10/11, 12	8/2, 3	10/11, 12	8/3, 4	10/12, 13	8/2, 3	10/11, 12
投網(12mm・18mm)	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投	各10投
タモ網	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人	30分×2人
セルビン・カニカゴ・どう	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個	各5個
延縄	30本	30本	50本	50本	50本	50本	50本	50本	30本	30本	50本	50本
刺網(一枚網・三枚網)	—	—	各5枚	各5枚	各5枚	各5枚	—	—	—	—	各2枚	各2枚
潜水観察	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人	30分×1人

表 6.1.3-3 (2) -1 調査項目別調査内容一覧 (底生動物)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成5年度	2	ダム湖内	St.1~2	平成5年8月 平成6年 2月、3月	定点採集(エクマンバージ型採泥器 15cm×15cm×2回) 定量採集(コドラート 50cm×50cm)
		流入河川	St.3		
平成7年度	5	下流河川	St.1	平成7年 7月、8月、12月 平成8年2月	定点採集(エクマンバージ型採泥器 15cm×15cm×5~6回) 定量採集(15cm×15cm×4~8回、25cm×25cm×3~8回) 定性採集
		ダム湖内	St.2~4		
		流入河川	St.5		
平成12年度	12	下流河川	St.1	平成12年 7月、11月 平成13年1月	定点採集(エクマンバージ型採泥器 15cm×15cm×6回) 定量採集(金属製コドラート(25cm×25cm)及び 目合0.5mmのハンドネットで採集) 定性採集(0.5mm目程度のハンドネット、熊手等で採集)
		ダム湖内	St.2~4		
		流入河川	St.5		
平成17年度	23	下流河川	St.1	平成17年 7月、10月 平成18年1月	定点採集(エクマンバージ型採泥器 15cm×15cm×5~6回) 定量採集(コドラート付きサーバーネット 25cm×25cm×8回) 定性採集(ハンドネット等)
		ダム湖内	St.2~4		
		流入河川	St.5		

表 6.1.3-3 (3) 調査項目別調査内容一覧 (動植物プランクトン)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成5年度	2	ダム湖内	No.1~3	平成5年 8月、11月 平成6年 2月、5月	植物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器、バケツ) 動物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器、バケツ) ネット法(プランクトンネット)
		流入河川	No.4		
平成11年度	9	下流河川	No.1	平成11年 5月、8月、11月 平成12年1月	植物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) 動物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) ネット法(プランクトンネット)
		ダム湖内	No.2~3		
		流入河川	No.5		
平成16年度	21	下流河川	No.1	平成16年 5月、8月、11月 平成17年2月	植物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) 動物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) ネット法(プランクトンネット)
		ダム湖内	No.2~3		
		流入河川	No.5		
平成18年度	25	下流河川	淀布下1	平成18年 4月~12月 平成19年 1月~3月	植物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) 動物プランクトン 採水法(バンドーン型採水器) ネット法(プランクトンネット)
		ダム湖内	淀布湖1		

表 6.1.3-3 (4) 調査項目別調査内容一覧 (植物)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成6年度	4	ダム湖周辺	植生分布調査:調査範囲全域 植物相調査:調査範囲全域 群落組成調査:No.1~No.23	平成6年 5月、7月、10月	植生分布調査:現地踏査 植物相調査:現地踏査 群落組成調査:コドラート法
平成11年度	10	ダム湖周辺	植生分布調査:調査範囲全域 植物相調査:調査範囲全域 群落組成調査:No.1~No.27	平成11年 5月、8月、10月	植生分布調査:現地踏査 植物相調査:現地踏査 群落組成調査:コドラート法
平成16年度	20	ダム湖周辺	植生分布調査: 1~3、4-1~2、5-1~2、6~7 植物相調査: 1~3、4-1~2、5-1~2、6~7 群落組成調査: No.1~31	平成16年 5月、8月、10月	植生分布調査:現地踏査 植物相調査:現地踏査 群落組成調査:コドラート法

表 6.1.3-3 (5) 調査項目別調査内容一覧 (鳥類)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成5年	2	ダム湖周辺	ルート:R-1~3 定点:No.1~3	平成5年 6月、8月、10月 平成6年1月	ラインセンサス法 定位記録法 移動中の任意確認
平成9年	7	ダム湖周辺	ルート:R-1~3 定点:No.1~3	平成9年 4月、5月、6月、 10月 平成10年1月	ラインセンサス法 定位記録法 夜間調査 移動中の任意確認
平成14年	16	下流河川	ルート:5-1	平成14年 5月、6月、10月 平成15年1月	ラインセンサス法 定位記録法 夜間調査 移動中の任意確認
		ダム湖内	定点:P-1~3		
		ダム湖周辺	ルート:1~3、4-1~2、6		
		流入河川	ルート:5-2		
平成18年	24	下流河川	淀布下1	平成18年 6月、10月 平成19年1 月、5月	ラインセンサス+スポットセンサス法 スポットセンサス法 定位記録法 夜間調査 移動中の任意確認
		ダム湖内	淀布湖1		
		ダム湖周辺	淀布周1~5		
		流入河川	淀布入1		

表 6.1.3-3 (6) 調査項目別調査内容一覧 (両生類・爬虫類)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成5年度	2	ダム湖周辺	調査区域全域	平成5年 6月、8月、 10月、11月 平成6年2月	目撃法・フィールドサイン法
平成10年度	8	ダム湖周辺	調査区域全域	平成10年 5月、7月、10月	目撃法・フィールドサイン法
平成15年度	18	下流河川	No.6	平成15年 5月、7月、10月	目撃法・フィールドサイン法
		ダム湖周辺	No.1~5、8		
		流入河川	No.7		

表 6.1.3-3 (7) 調査項目別調査内容一覧 (哺乳類)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成5年度	2	ダム湖周辺	踏査:調査区域全域 トラップ:St.1~5	平成5年 6月、8月、10月 平成6年2月	目撃法・フィールドサイン法 トラップ法(パンチュウ)
平成10年度	8	ダム湖周辺	踏査:調査区域全域 トラップ:St.1~5	平成10年 5月、7月、10月 平成11年1月	目撃法・フィールドサイン法 トラップ法(パンチュウ、ヴィクター)
平成15年度	18	下流河川	No.6	平成15年 5月、7月、10月 平成16年1月	目撃法・フィールドサイン法 トラップ法(パンチュウ、カメトラップ) 自動撮影
		ダム湖周辺	No.1~5、8		
		流入河川	No.7		

表 6.1.3-3 (8) 調査項目別調査内容一覧 (陸上昆虫類)

年度	調査番号	調査範囲	調査地点	調査時期	調査方法
平成6年度	4	ダム湖周辺	踏査:調査区域全域 ライトトラップ:No.1~No.3 ピットフォールトラップ: No.1~No.4	平成6年 5月、6月、 7月、9月	任意採集法 (見つけ探り法、スウィーピング法、ビーティング法) ライトトラップ法(カーテン法) ピットフォールトラップ法 ホタル調査
平成10年度	8	ダム湖周辺	踏査:調査区域全域 ライトトラップ:No.1~No.3 ピットフォールトラップ: No.1~No.4	平成10年 5月、6月、 7月、10月	任意採集法 (見つけ探り法、スウィーピング法、ビーティング法) ライトトラップ法(カーテン法) ピットフォールトラップ法 ホタル調査
平成15年度	19	下流河川	No.5-1	平成15年 5月、6月、 7月、10月	任意採集法 (見つけ探り法、スウィーピング法、ビーティング法) ライトトラップ法(カーテン法) ピットフォールトラップ法 ホタル調査
		ダム湖周辺	No.1~3、4-1~2、6		
		流入河川	No.5-2		

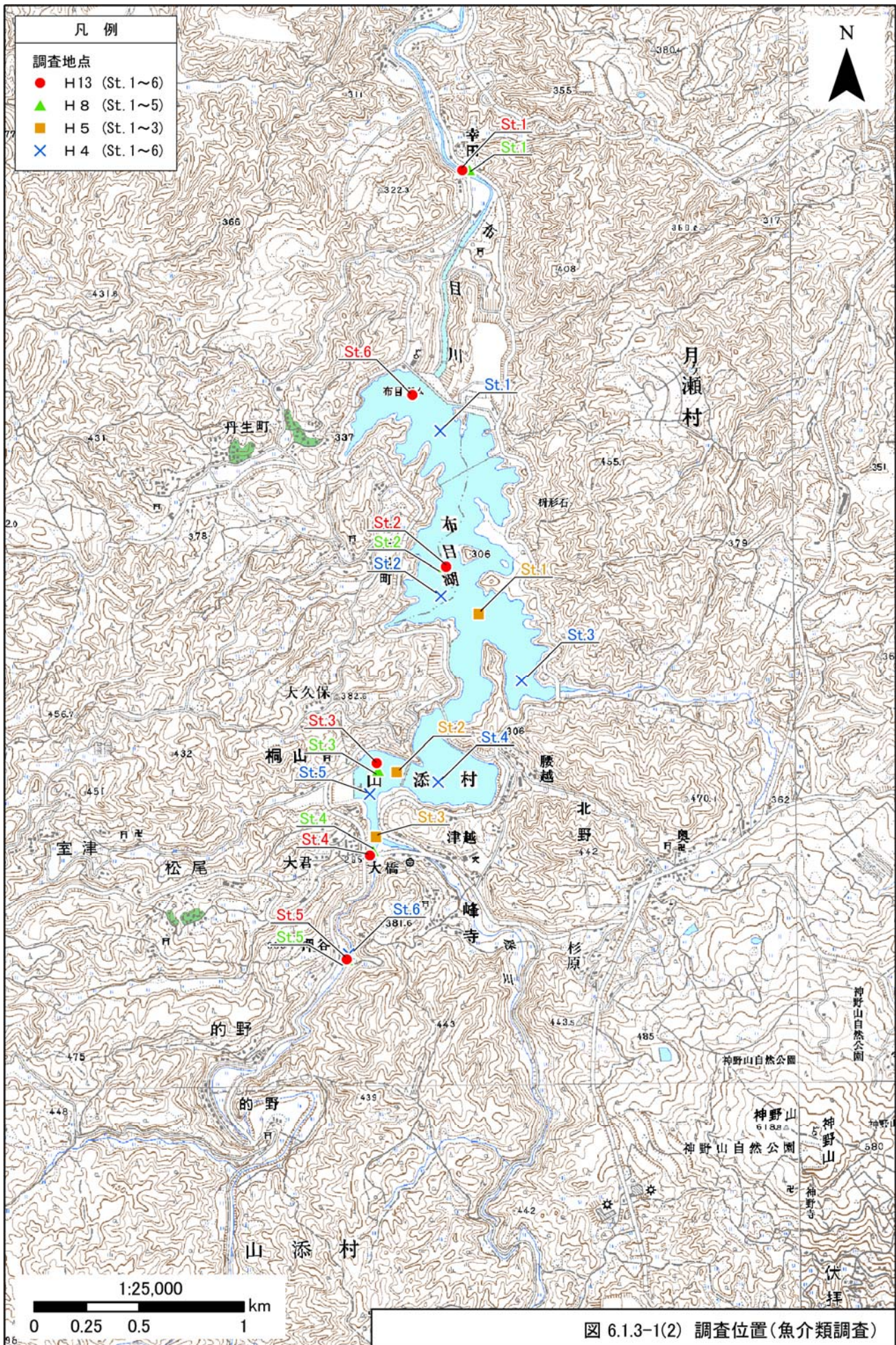
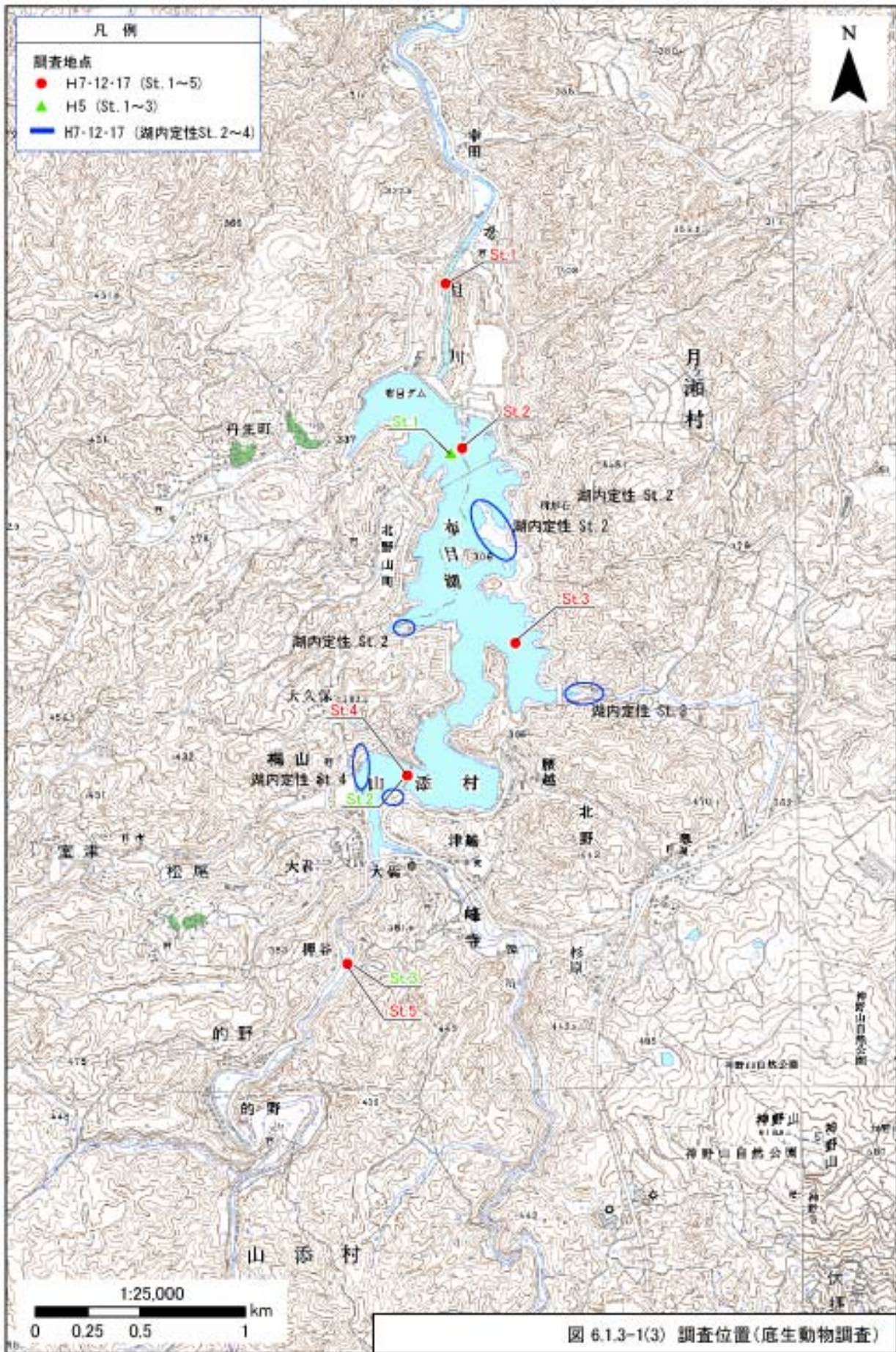
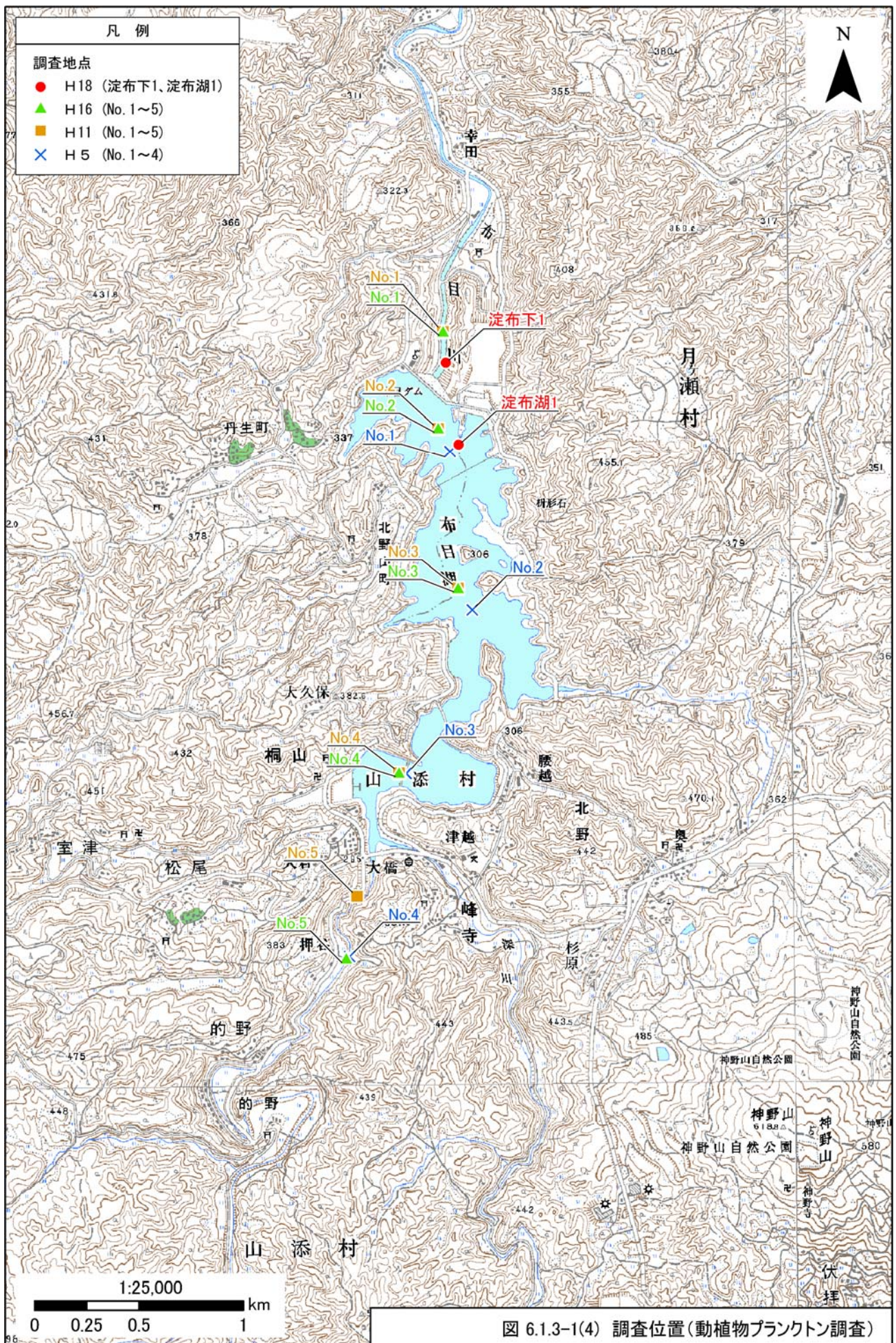
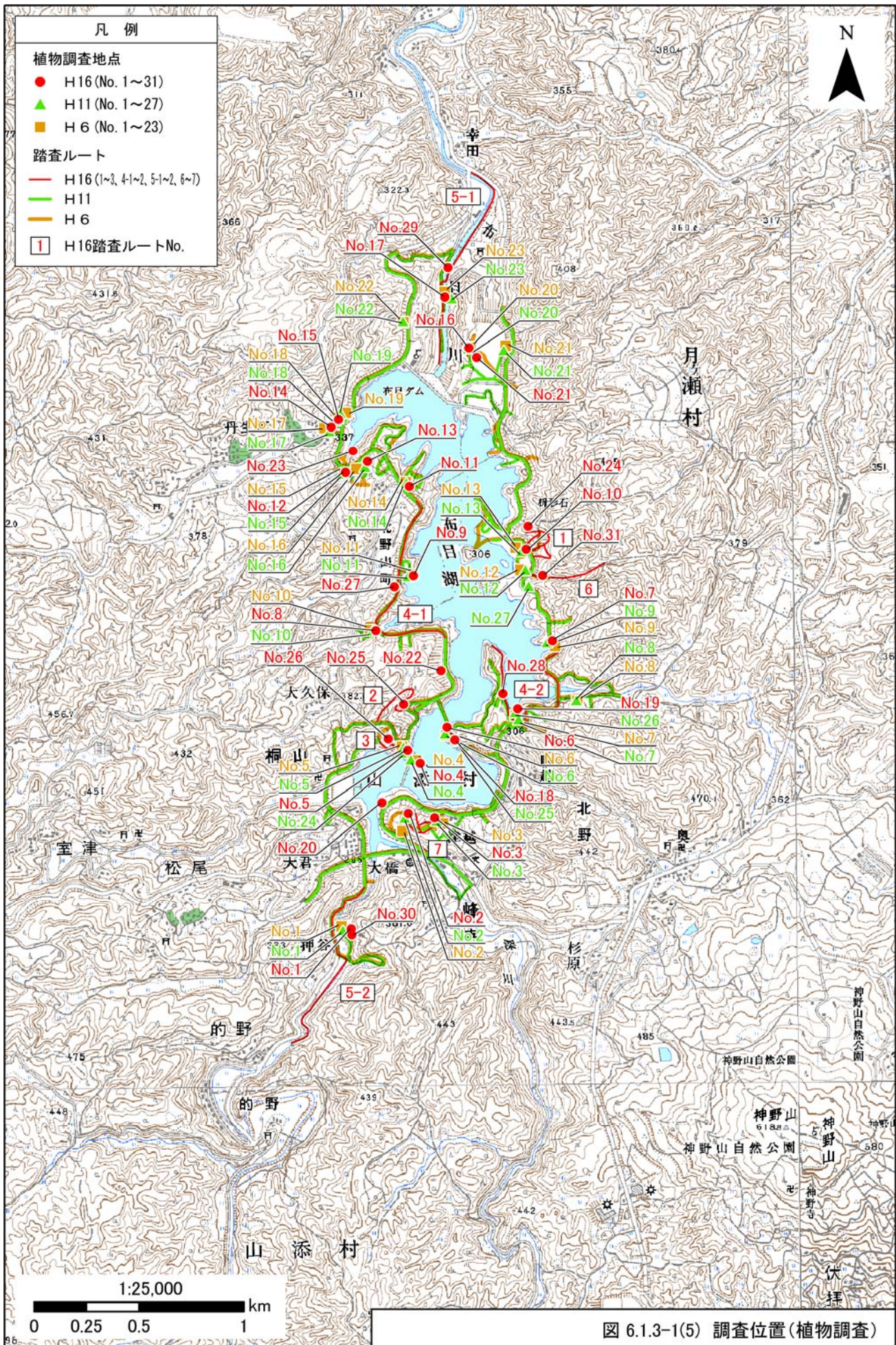
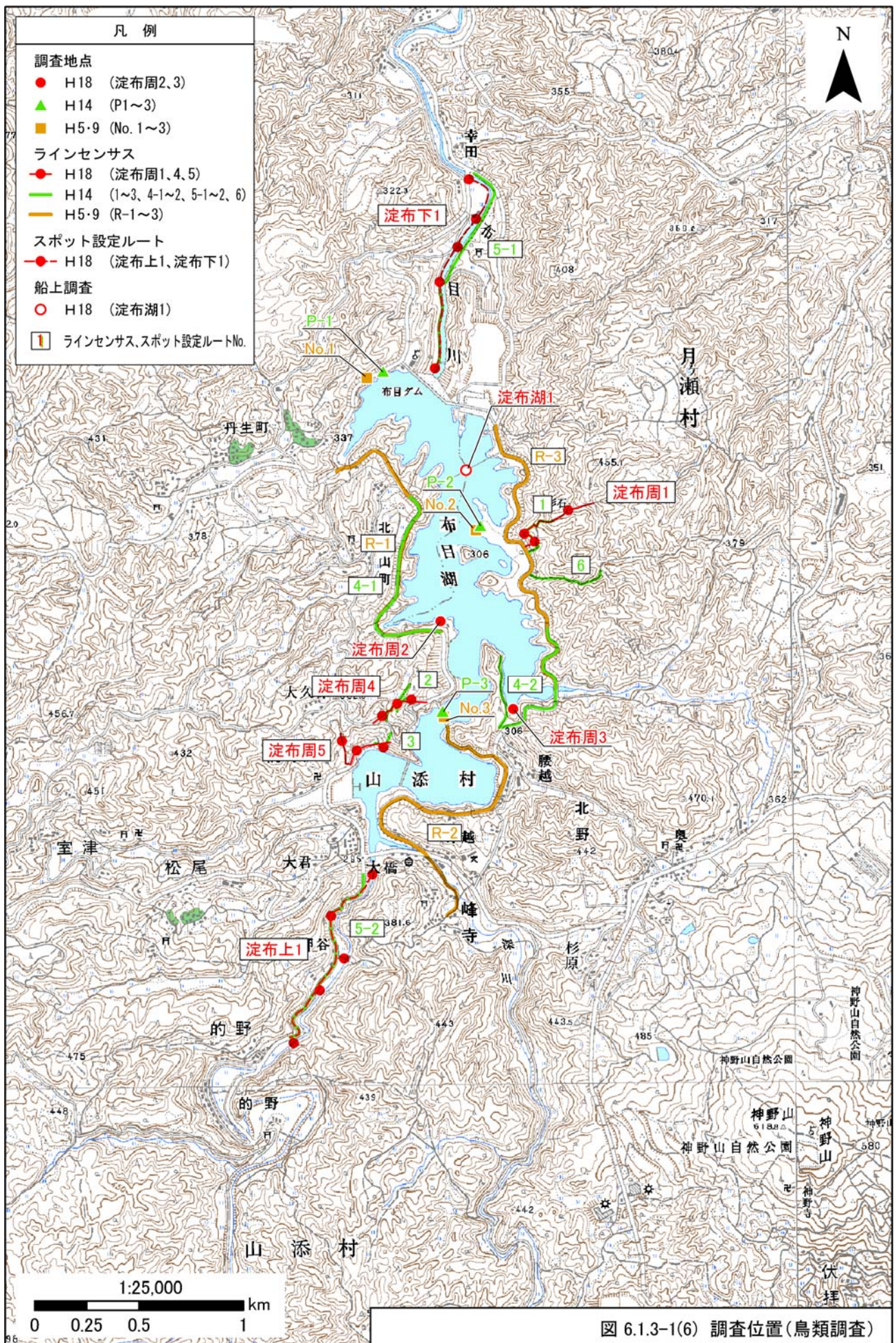


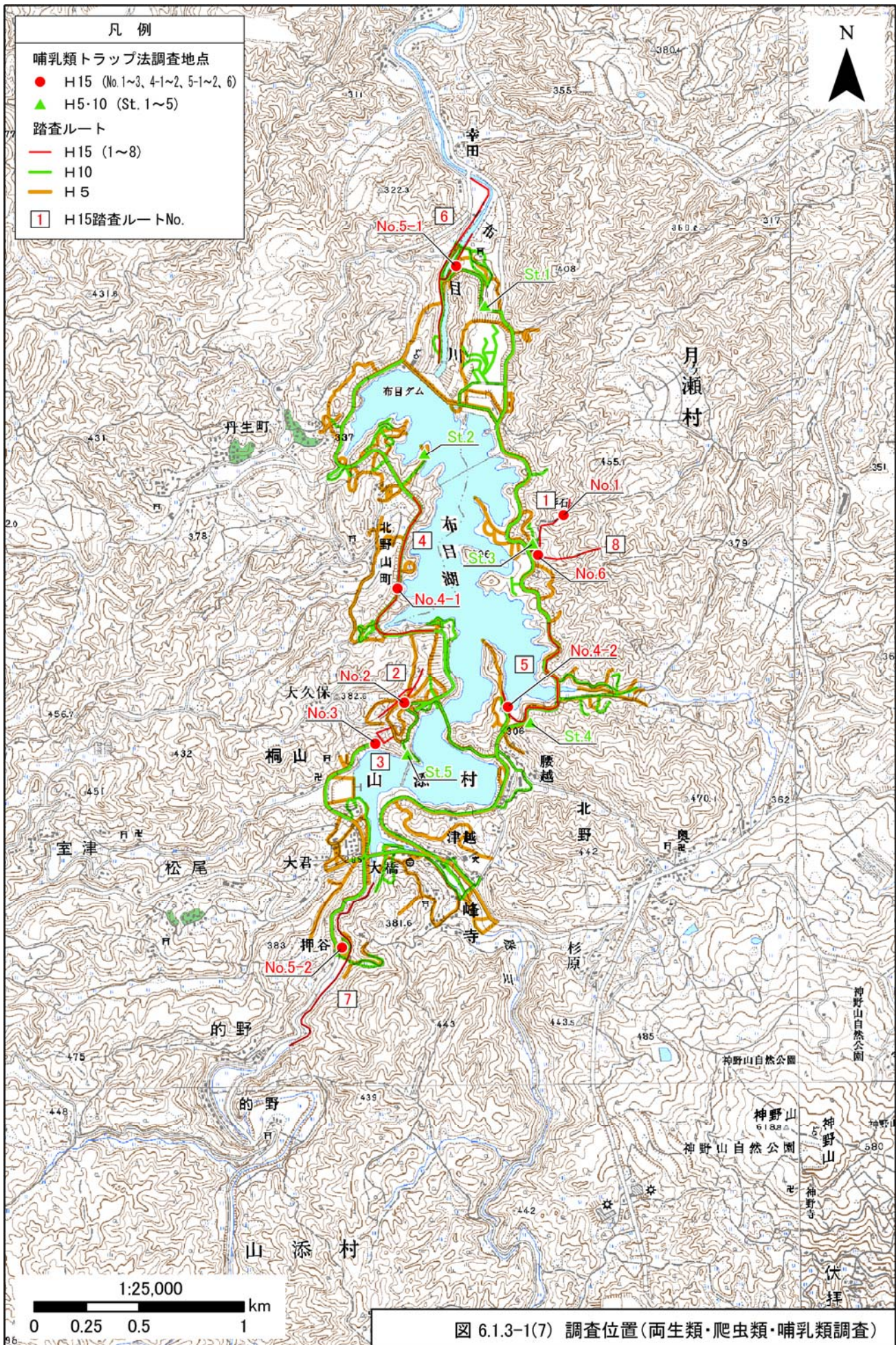
図 6.1.3-1(2) 調査位置(魚介類調査)

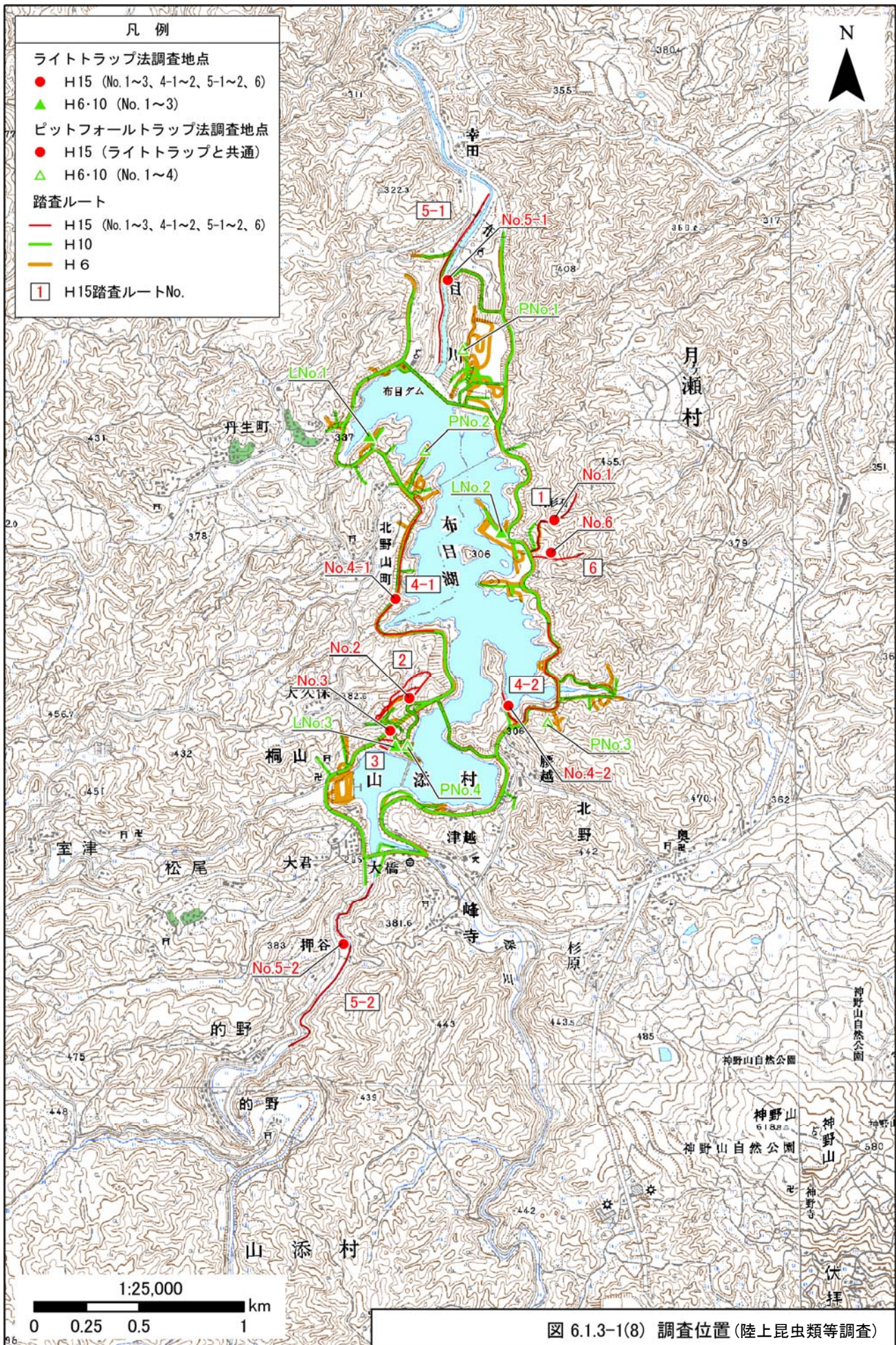












(3) 調査地点・定線等の設定方法の変更

平成 13 年度の調査から植物・動物と生育・生息環境（場）との関係を目的に含めることとして、関係する陸域の調査項目について、調査地点・定線等の設定方法を変更している。調査対象環境は、植物群落に係わるものと、植物群落以外の調査対象環境を設定した。

表 6.1.3-4 調査対象環境の設定方法

調査対象環境		調査項目		植物調査 (植物相調査) H16	鳥類調査 H14、H18	両生類・爬虫類・哺乳類 調査 H15	陸上昆虫等 調査 H15
		環境の 形態					
植物群落	第 1 位群落	面		○	○	○	○
	第 2 位群落	面		○	○	○	○
	第 3 位群落	面		○	○	○	○
群落以外	開放水面	面		—	○	—	—
	林縁部	線		○	○	○	○
	河畔	線		○	○	○	○
	沢筋	線		○	○	○	○

凡例 ○：調査環境 —：対象外

(植物群落について)

ダム湖及びその周辺を代表する環境として、既往の現存植生図から読み取った調査対象範囲内の植物群落別面積のうち、面積の大きい群落等区分（開放水面を除く）の上位 1～3 位を抽出し、調査対象環境として設定した。

(群落以外について)

開放水面：鳥類調査においては、開放水面（ダム湖）も調査対象環境として設定。

林縁部：道路沿いや木本植物群落の境界等の林縁環境。

河畔：流入河川沿い、流出河川沿いの環境。

沢筋：原則としてダム湖に流入する沢沿いの環境。

表 6. 1. 3-5 調査対象区域の環境の概要

調査対象環境		概要
植物群落	第1位群落	スギ・ヒノキ植林 ダム湖中部に位置する。尾根上へ斜面に立地し、直径15～30cm、高さ15mのヒノキ主体のスギ・ヒノキ植林。林内は明るく、土壌の腐植層はうすい。低木ではアオキ・ムラサキギキブ・クロモジが生育し、草本ではジャノヒゲ・ベニシダ類が生育する。なお、下草の繁茂状況から、刈り取り後2～3年であると考えられる。動物では、鳥類ではクワイイタダキなど、両生類・爬虫類ではニホンマンムシなど、哺乳類ではムササビなど、陸上昆虫類ではヒグラシなどの生息が期待される。
	第2位群落	コナラ群落 ダム湖中南部に位置する。斜面に立地し、直径10～20cm、高さ10mのコナラ・クスギから成るコナラ群落。林内は低木類やササ類が密生する。低木ではアラカシ・ソヨゴ・モチツツシ・ヒサカキ・クロモジ等が生育する。草本ではササ類が多く、サルトリイバラやツルリンドウ等も生育する。動物では、鳥類ではキツツキ類・カケスなど、両生類・爬虫類ではジムグリなど、哺乳類ではキツネ・タヌキなど、陸上昆虫類ではコクワガタ・イワウキオサムシ・ヤママトタママシなどの生息が期待される。
	第3位群落	モウソウチク・マダケ林 ダム湖中南部に位置する。斜面に立地し、直径10cm、高さ10mのモウソウチク主体の明るい竹林。低木ではアラカシ・ヤブツバキ・ヒサカキ・ムラサキギキブ等が生育し、草本ではベニシダ類・フユイチゴ・スゲ類が生育する。動物では、鳥類ではスズメなど、両生類・爬虫類ではシマヘビなど、哺乳類ではニホンリスなど、陸上昆虫類ではベニカミキリなどの生息が期待される。
特徴的な群落		—
開放水面		ダム湖貯水全域
群落以外	林縁部	第一位群落であるスギ・ヒノキ植林、コナラ群落、モウソウチク・マダケ林、クズ群落など多様な群落の境界を通る道路沿いである。前回調査で昆虫類の特定種が比較的多く確認されたエリアを含む。林縁部には、アカメガシワ・コナラ・ヌルデ等の林縁植生が成立する。また、ヨモギ・イネ科草本・セイタカアワダチソウ等が生育する。乾性草本群落もみられる。動物では、鳥類ではホオジロ等など、両生類・爬虫類ではニホンカナヘビ・ニホンアマガエルなど、哺乳類ではイタチチ属・コウモリ類など、陸上昆虫類ではムカシヤンマ・アオツツムシ・ヒメカマキリモドキなどの生息が期待される。
	河 畔	第一位群落であるスギ・ヒノキ植林、コナラ群落、モウソウチク・マダケ林、クズ群落など多様な群落の境界を通る道路沿いである。前回調査で昆虫類の特定種が比較的多く確認されたエリアを含む。林縁部には、アラカシ・ヤブツバキ・ヒサカキが生育し、ススキ草場もみられる。動物では、鳥類ではホオジロ等など、両生類・爬虫類ではニホンカナヘビ・ニホンアマガエルなど、哺乳類ではイタチチ属・コウモリ類など、陸上昆虫類ではムカシヤンマ・アオツツムシ・ヒメカマキリモドキなどの生息が期待される。
流出河川		川幅6～8m、ソルヨシ群落が発達していることが特徴である。河原には一部岩盤がみられる。岩盤上にはヤナギ類が生育する。また、ササ類やクズが繁茂している部分もある。アカメガシワやネムノキが所々に生育する。動物では、鳥類ではカワガラ・ス・ヤマセミ・カワセミなど、両生類・爬虫類ではカジカガエルなど、哺乳類ではカヤネズミなど、陸上昆虫類ではクロソジヘビトトンボ・ゲンジボタルなどの生息が期待される。
流入河川		川幅4～10m、河原は場所によっては岩盤がみられ、その他は径0.3～2mの礫がみられる。砂礫堆もあり、ここではヤナギ類・ツルヨシ・ススキ・セイタカアワダチソウが生育する。また、岩盤上にはヤナギ類・スゲ類が生育する。動物では、鳥類ではカワガラ・ス・ヤマセミ・カワセミ・カワセミなど、両生類・爬虫類ではカジカガエルなど、哺乳類ではカヤネズミなど、陸上昆虫類ではクロソジヘビトトンボ・ゲンジボタルなどの生息が期待される。
特殊な環境		沢筋 沢幅0.5～1m、スギ・ヒノキ植林内を貫流するやや明るい沢。沢の周辺には、低木のアオキ・サカキ・シラカシ等が、草木はシヤカ・ヤマアジサイ・スゲ類・ユキノシタ等が生育する。動物では、鳥類ではオオルリ・ミンソザイなど、両生類・爬虫類ではニホンヒノキガエルなど、哺乳類ではトビケラ類などの生息が期待される。